

下水道管路の全国特別重点調査について

資料－４

1. 調査結果と今後の対応

(1) 全国特別重点調査 ※２月末に国に報告した暫定値（国の公表時期は未定）

管路調査			
調査対象		判定	延長
対象条件	全体延長		
30年以上経過 内径2m以上	20km	緊急度Ⅰ	0.9km
		緊急度Ⅱ	11.2km
		緊急度Ⅰ・Ⅱ 以外	7.9km



緊急度Ⅰ・Ⅱに判定された箇所の空洞調査		
調査深度 (調査方法)	調査対象	空洞の可能性 がある箇所
土被り3mまで (特殊車両レーダー探査)	6.1km	42か所★
土被り3mを超える (簡易貫入試験)	44か所 (3.1km)	1か所

◎損傷は、ほとんどが部分的な破損や鉄筋露出

◎全ての区間で、陥没に繋がるような下水道管内への土砂等の流入がないことを確認

★空洞の可能性のある42か所は、再度、周辺を現地確認し、下水道に起因すると思われる6か所（原因は調査対象外である取付管）、令和7年度中に対応完了予定

★残る36か所については、道路管理者（国、県、市）へ報告済

【今後の対応】

判定	延長	対応
緊急度Ⅰ	0.9km	R8年度に補修工事予定（全箇所） R8、9年度に管更生工事予定（潮江西1号、農人町合流幹線）
緊急度Ⅱ	11.2km	R8年度から5年以内を目途に補修工事予定（全箇所）

(2) 市独自調査

管路調査			
調査対象条件	対象路線	延長	判定
分流污水管 シールド工法 曲線半径120m以下	海老ノ丸1号污水幹線(φ1650、29年経過)★	1.3km	緊急度Ⅱ
	南部3号污水幹線(φ1500、34年経過)	1.0km	緊急度Ⅰ・Ⅱ 以外

★マンホール部及び下水道管の一部に、硫化水素による腐食を確認（コンクリートの強度低下は無し）

★平均硫化水素ガス濃度11.9ppmを検知（腐食対策が必要となる目安は10ppm以上）

【今後の対応】

判定	対策箇所	対応
緊急度Ⅱ	マンホール部及び下水道管の一部	R8、9年度に腐食対策工事予定

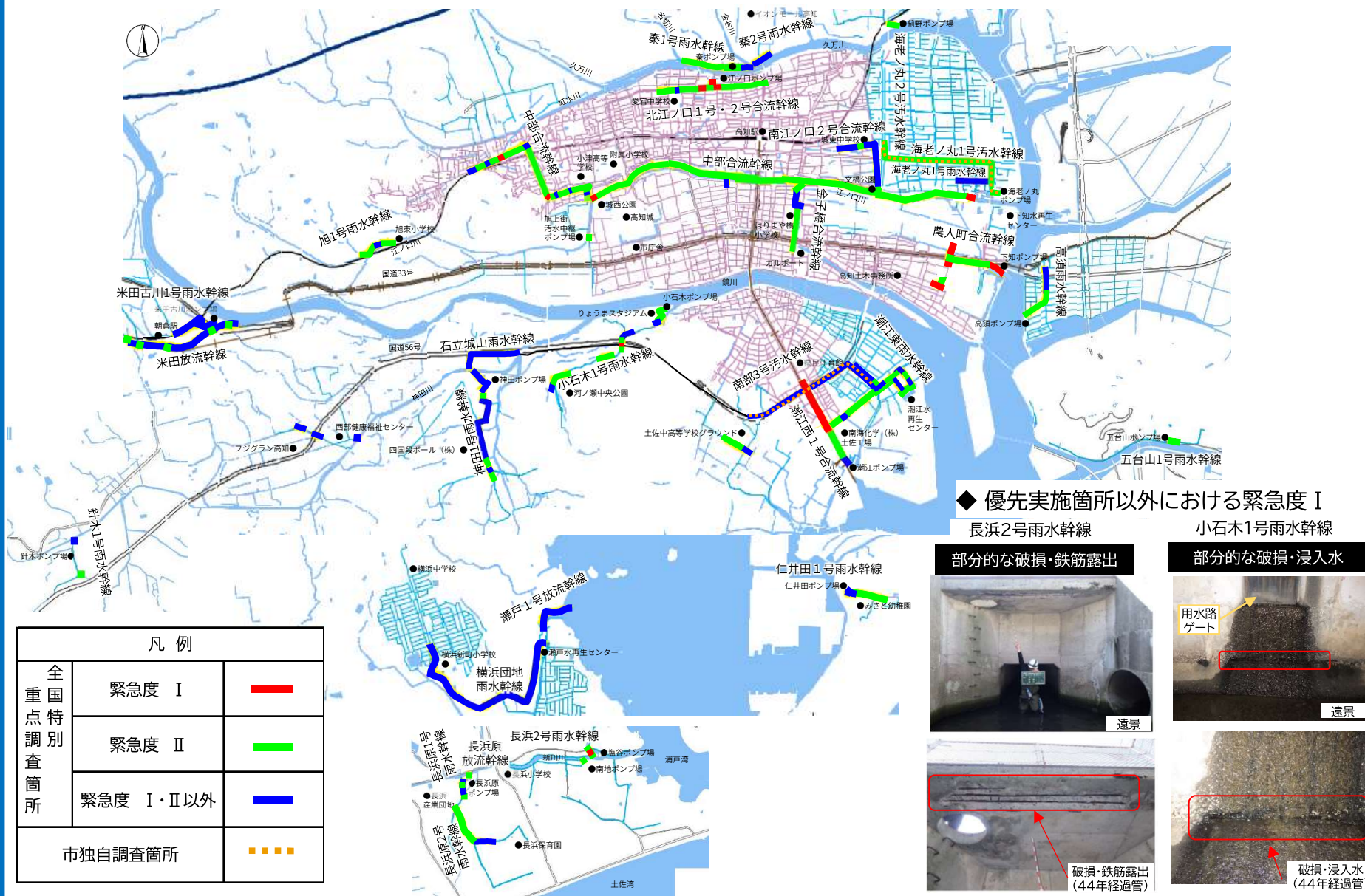
補修による長寿命化対策



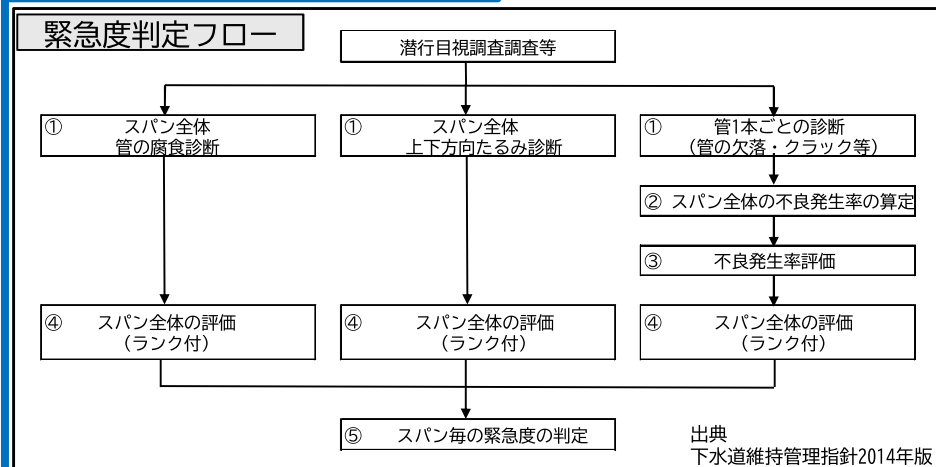
管更生工事



2. 調査結果（位置図）



参考資料（緊急度判定について）



腐食・たるみ・破損の評価基準（全国特別重点調査の基準）

スパン全体で評価	ランク		A（重度）	B（中度）	C（軽度）
	項目				
	管の腐食		鉄筋露出状態	骨材露出状態	表面が荒れた状態
	上下方向のたるみ	管渠内径 1650mm以上 3000mm以下	内径の1/4以上	内径の1/8以上	内径の1/8未満

管一本ごとに評価	ランク		a（重度）	b（中度）	c（軽度）
	項目				
	管の欠落及び軸方向クラック	鉄筋コンクリート管等	欠落	軸方向のクラックで幅2mm以上	軸方向のクラックで幅2mm未満
	管の円周方向クラック		円周方向のクラックで幅5mm以上	円周方向のクラックで幅2mm以上	円周方向のクラックで幅2mm未満
	管の継手ズレ		脱却	70mm以上	70mm未満
	浸入水		噴き出ている	流れている	にじんでいる

ランク (スパン全体での評価)	評価の基準（不良発生率）
A	「aランク20%以上」もしくは「aランク+bランク40%以上」
B	「aランク20%未満」もしくは「aランク+bランク40%未満」もしくは「aランク+bランク+cランク60%以上」
C	「aランク、bランクがなく、cランク60%未満」

区分	現行の基準	全国特別重点調査の基準
緊急度Ⅰ	ランクAが2項目以上	ランクAが1項目以上
緊急度Ⅱ	ランクAが1項目もしくはランクBが2項目以上	ランクBが1項目以上

◆ 優先実施箇所における緊急度Ⅰ

潮江西1号合流幹線

部分的な鉄筋露出



遠景



鉄筋露出
68年経過

北江ノ口2号合流幹線

部分的な破損・鉄筋露出



遠景



鉄筋露出
61年経過

◆ 他都市の緊急度Ⅰ（硫化水素による腐食事例）

全体的な鉄筋露出



下水道管

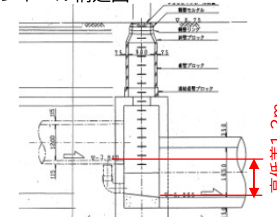
全体的な鉄筋露出



マンホール下部

◆ 市独自調査（海老ノ丸1号汚水幹線マンホール）

マンホール構造図



高低差1.2m



マンホール
29年経過